

小山町重層的支援体制整備事業の実施状況

- 相談支援:小山町社会福祉協議会／小山町地域包括支援センター
※コーディネーターを配置し属性を問わない相談支援業務を委託
- 相談支援包括化ネットワーク会議(個別ケース会議を随時実施)
開催方法:毎月第2水曜日
進行役:アドバイザー／事務局:社会福祉課
参加者:庁内関係課(社会福祉課・健康増進課・くらし環境課・会計収納課・こども未来課・都市整備課
住民課・長寿介護課 参加者の内2名が保健師)
委託先(小山町社会福祉協議会・小山町地域包括支援センター)
※必要に応じて外部の関係機関も召集
- 事業費:令和6年度 5,131,790円(委託費含む)

3

令和5年度の実績

相談実績

<社協>相談129件/支援62件(ネットワーク会議調整5件/個別ケース会議開催件数7件)

<包括>相談119件/支援68件(ネットワーク会議調整1件/個別ケース会議開催件数0件)

ネットワーク会議開催回数:10回 件数:新規4件・モニタリング8件 / 終結4件

(ケース内容:精神疾患で生活困窮、精神疾患で受診拒否、生活困窮で子育て世帯、精神疾患で多量内服、障害疑いはあるが診断がついていない、世帯全員に知的障害がある生活困窮)

- ・庁内関係課:7課(福祉長寿課・健康増進課・くらし環境課・会計収納課・こども未来課・都市整備課・住民課)
- ・相談支援機関:10職種(小山町社会福祉協議会・小山町地域包括支援センター・弁護士事務所・民生委員児童委員・御殿場保健所・小学校・訪問看護ステーション・障害者計画相談支援事業所・障害児相談支援事業所・就労支援事業所B型)

4

●事例 社会経験の少ない30代独居男性の支援について

<基本情報>

Aさん:30代男性(独居)
父親:他界(Aさん高校3年生)
母親:60代後半 施設入所中(脳梗塞後遺症)

<事例内容>

母親が倒れてから一軒家で独居。家はゴミ屋敷状態でトイレ・風呂・ガスは使えない。
水道・家賃も滞納状態で住民税の滞納もあり給料が差し押さえられた状態である。
介護の仕事に就いたが周囲と上手くやれていない。

<検討課題>

- ①本人の生活上の課題の理由はどこになるのか。障害によるもの？
- ②自立に向けて、どこを支援したらよいのか。
- ③障害の手帳等がない場合、どの機関が中心に支援を行い、どのようなサービスが受けられるのか。
- ④使える社会資源がない場合にネットワーク会議で何が出来るのか。

5

相談支援包括化ネットワーク会議の効果

●メリット

- ・制限なく関係者を招集できることにより問題点を整理しやすく情報共有しやすい
- ・今後の方向性を導きやすい
(会議中に担当が決まるので次回までの動きを把握しやすい)
- ・出席者が同じ方向で支援が出来るため、日頃から小さな情報でも情報交換ができる
- ・終結が見える

●デメリット

- ・人材不足
- ・アドバイザーが居ないと会議がまとまらず解決策まで導けない
- ・会議の必要性の認識について出席者に差がある
- ・ケースを上げる課が固定されてしまう

6

委託先が感じる会議実施の効果

- ・困難事例を抱えていたところの負担が軽減された
- ・こどもや学校関係の支援者が会議に参加してくれるようになった
- ・役割分担を明確にすることでケースが進んだ

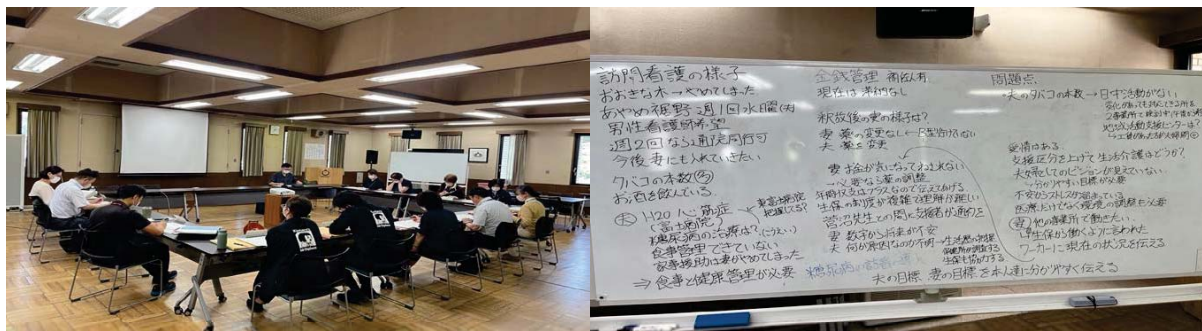
※要望

- ・医療機関の参加があると良い（診断名や症状について議論できる）
- ・守秘義務がかかっている会議であることを参加者に再認識してほしい

7

重層的支援体制整備事業の実施を踏まえた課題

- ・ネットワーク会議を進行する中核機関の技法を取得するのが難しい
- ・相談者に対するアウトリーチ等を通じた継続的な支援をする受け皿が少ない
- ・当事者が声をあげやすい相談窓口の周知



8

ご清聴ありがとうございました

